【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第４区分
【発行日】平成24年11月29日(2012.11.29)

【公開番号】特開2011-83911(P2011-83911A)
【公開日】平成23年4月28日(2011.4.28)
【年通号数】公開・登録公報2011-017
【出願番号】特願2009-236434(P2009-236434)
【国際特許分類】
Ｂ４１Ｊ　2/175　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ４１Ｊ　3/04　１０２Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成24年10月15日(2012.10.15)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
液体を外部に供給するための供給部が設けられるとともに第１の側壁を有する下段と、第２の側壁を有して当該第２の側壁により形成される開口部が前記第１の側壁により形成される開口部よりも大きい上段とを有する液体収納部を備え、該液体収納部の内部に前記液体を保持する吸収部材が収容される液体収納容器の製造方法であって、
前記第１の側壁の内面に接して前記第２の側壁の内面とは隙間を有する吸収部材を前記液体収納部の高さ方向に圧縮して配置する工程と、
圧縮された前記吸収部材に液体を注入して前記吸収部材の側面から前記液体の一部を排出し、排出された液体を前記吸収部材と前記第２の側壁との間に保持する工程と、
圧縮された前記吸収部材の圧縮状態を解放して、前記吸収部材と前記第２の側壁との間に保持された液体を前記吸収部材に吸収させる工程と、
を備えることを特徴とする液体収納容器の製造方法。
【請求項２】
前記吸収部材と前記第２の側壁との間に保持された液体を前記吸収部材に吸収させる工程の後に、前記上段の開口部に蓋を接着する工程を更に有し、前記吸収部材を前記液体収納部に高さ方向に圧縮して配置する工程における前記吸収部材の圧縮量より、前記蓋により圧縮される前記吸収部材の圧縮量が小さいことを特徴とする請求項１に記載の液体収納容器の製造方法。
【請求項３】
前記第２の側壁は４つの側面を有し、
前記４つの側面と前記吸収部材との間に前記隙間が設けられていることを特徴とする請求項１または２に記載の液体収納容器の製造方法。
【請求項４】
前記第２の側壁は４つの側面を有し、
前記第２の側壁の中で面積が大きい２つの側面と前記吸収部材との間にそれぞれ前記隙間が設けられていることを特徴とする請求項１または２に記載の液体収納容器の製造方法。
【請求項５】
前記第２の側壁は４つの側面を有し、

前記第２の側壁の中で面積が小さい２つの側面と前記吸収部材との間にそれぞれ前記隙間が設けられ、

前記第２の側壁の中で面積が大きい２つの側面の少なくとも一方は、前記液体収納容器が液体吐出装置に装着される際に他の液体収納容器と隣り合って配置される側壁であることを特徴とする請求項１または２に記載の液体収納容器の製造方法。

【請求項６】

前記吸収部材を前記液体収納部の高さ方向に圧縮した後に、前記液体を注入するための液体注入針を前記吸収部材の内部に挿入することを特徴とする請求項１～５のいずれかに記載の液体収納容器の製造方法。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１０

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１０】

本発明は、液体収納容器の製造方法であって、液体を外部に供給するための供給部が設けられるとともに第１の側壁を有する下段と、第２の側壁を有して当該第２の側壁により形成される開口部が前記第１の側壁により形成される開口部よりも大きい上段とを有する液体収納部を備え、該液体収納部の内部に前記液体を保持する吸収部材が収容される液体収納容器の製造方法であって、前記第１の側壁の内面に接して前記第２の側壁の内面とは隙間を有する吸収部材を前記液体収納部の高さ方向に圧縮して配置する工程と、圧縮された前記吸収部材に液体を注入して前記吸収部材の側面から前記液体の一部を排出し、排出された液体を前記吸収部材と前記第２の側壁との間に保持する工程と、圧縮された前記吸収部材の圧縮状態を解放して、前記吸収部材と前記第２の側壁との間に保持された液体を前記吸収部材に吸収させる工程と、を備えることを特徴とする。